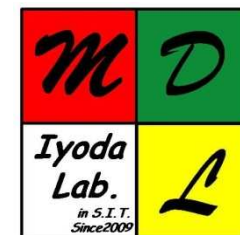


維持管理工学

～第三回 公共事業の歴史～

マテリアルデザイン研究室
伊代田 岳史



日本の公共事業の歴史

NHK 「歴史は眠らない」

ニッポン公共事業物語：堺屋太一

@第3回 “希望”が作り出した近代国家

@第4回 成功から迷走 そして理想の模索へ

近代国家への道のり

そして、公共事業への批判の歴史

公共事業を歴史から読むと

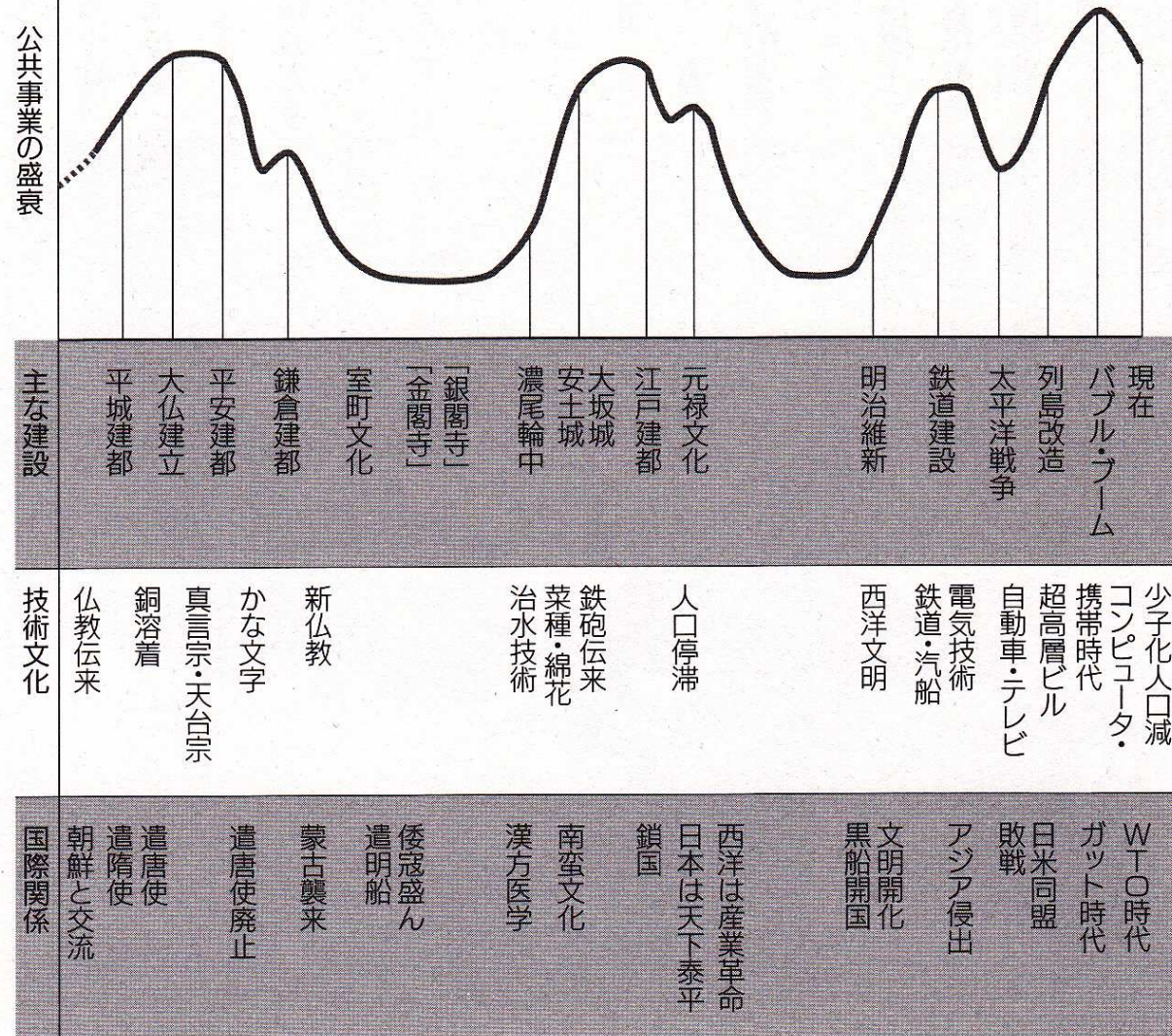
- 土地改良、城作り、用水路建設など、いずれも最初は「必要があるから造る」というところから始まっている
→だから役に立つ
- しかし、だんだん造ることが目的となり、金有余っているから造るという本来の必要性が失われて本末転倒となってきた...

役に立つ公共事業とは

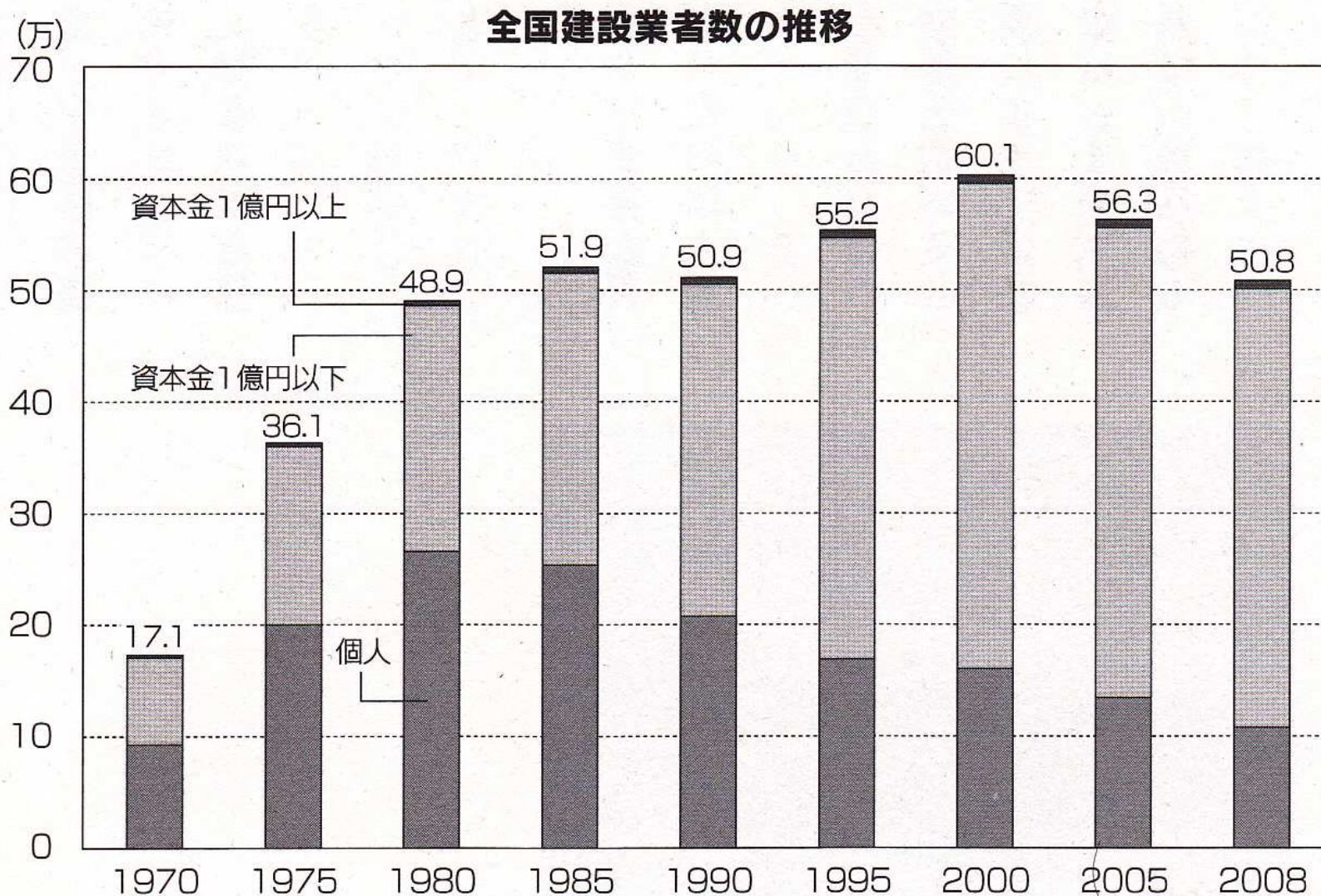
- 公共事業を通じて、新しい技術が生まれる、進歩する
- 公共事業の結果が新しい産業や文化が生まれ、未来につながる
- 地域(地元)の人々が公共事業に夢を託す

公共事業の浮き沈み

公共事業の盛衰と主な技術文化、国際関係（イメージ図）

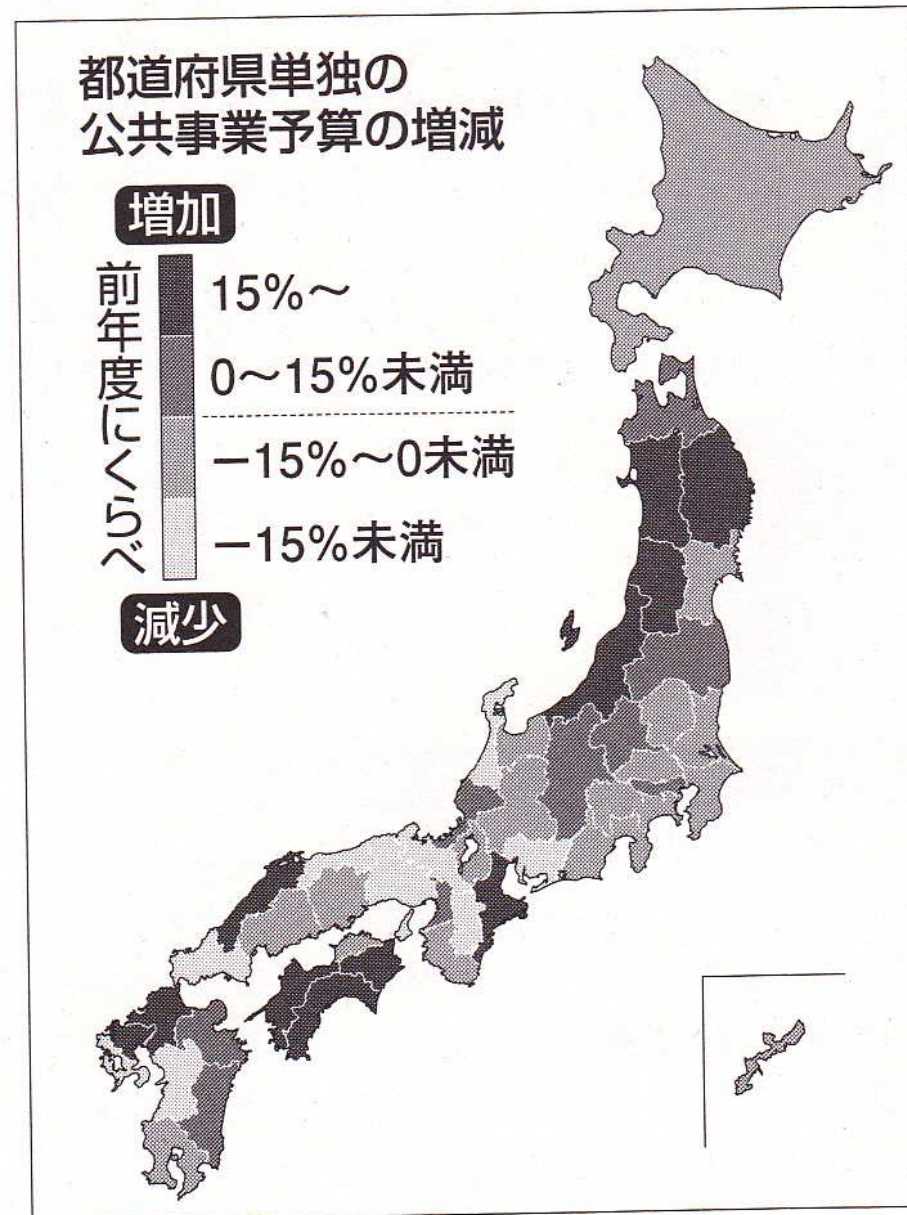


全国建設業者数の推移



国土交通省「建設業許可業者数調査の結果について」より作成

地方の公共事業予算の増減



公共事業拡大の三要素

官僚主導の計画づくり

「所得倍増計画」「全国総合開発計画」

規格基準作り

日本全国の公共施設の一律化

財政の仕組み作り

特別会計の導入

公共事業の夢実現へ

①「規格大量生産を目指す戦後政策」との決別

中国やアジア諸国が上達し、低賃金低価格競争
⇔ 日本では競争できない

＊ 官僚主導・業界協調体制の決別

＊ 東京一極集中の改革（地方分権）

②公共事業の概念の変革

「未来を創る」事業、「夢を実現する仕事」

③高齢化社会への対応

→ 「楽しい街造り」の見直しと公共事業の効用